

2013年度

ふじたひさのり
理事長：藤田尚徳



01

理事長として最も重視された点をお教えてください。

静岡市や各行政に向けた対外的な活動を重点に置き事業を進めてきた。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

まずは、理事長が理事長所信を作成し、次にその所信を反映したスローガンや基本方針を理事会構成メンバーが練った。

所信を作成するにあたって、JC活動で培った経験、特に先輩から頂いてきたアドバイス、出向先で出会った方々からのアドバイスなどを集約して所信ができたと思う。よって、過去の先輩方々の想いが繋がった所信ができ、それが、スローガン、基本方針へと反映されていったと思う。

例えば、所信の一部に国際社会の一員として活動していくというところがあるが、それはまさにJC活動で出会った先輩方々の想いが繋がった部分だと思う。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

上程書の中で「背景・目的・手法・効果」の順で作成される一つの事業、その繰り返しをJC活動で訓練してきた。物事の考え方も「背景・目的・手法・効果」に沿った一本筋の通った考えをすることができ、それは結果、会社経営の場面や生活の中で大変役立つことが多い。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

特に一つだけ取り上げるということは難しい。12個の委員会がそれぞれ活動し最後に理事長が考えた所信通りの形に近づいた時、それが一番嬉しかった。

それが、自分が考えていた以上の形が残せたことに感動した。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

2013年度は対外的活動を重視して事業を行ってきた。2014年度は、鎌田理事長を中心に対内的な活動を中心に行われていくと思う。昨年の活動で足りなかったところを補い合っていくことが、結果的に今との違いになると思う。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

その時代背景にあった運動が変わっていくことは当然なことであり、常に、そこが変わっていない事、代々の理事長で伝わっているものである。

07

これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願致します。

「大変な場面から逃げないように。」を強く言いたい。大変なことを成し遂げることで情熱をつかみ、成長する。そして、それがまちに対する我々の役割となる。

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

これは大変重要な問題である。静岡市民は「やさしい人」「いい人」が多い。その為か、他の町から来た人が良く言う静岡の魅力、それを静岡市民がうまく他の人へ伝えることが出来ていない。

静岡の良さを発信することに誰かが一度チャレンジしなければいけない。一度でいいからやりすぎぐらいに、静岡の魅力を発信しなければいけない。その結果、魅力が伝わり、経済にも影響が出て、良いサイクルとなるはずだ。

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2013年度のキーワードとして『和の精神』『輝き』『仁川』等があると思いますが、

藤田さんにとってその年をひとりで表すならどのような言葉を選びますか。

「和」という言葉を選ぶ。「和」と聞くと、「なごむ」ということだけ考えがちだが、日本という意味で国際社会にアピールする意味もある。また、他人が他人を認め合う、協調しあう意味も持っている。

10

和の精神を重んじて活動してきた2013年度でしたが、理事長自身や現在までのJCをみてどのような場面で和の精神が浸透したと感じましたか。

他の人の話をよく聞いている様子、すなわち、他人を尊重している姿が和の精神が浸透している表れかと感じている。

もっとそれを身近に感じているのは、理事長より、当時の専務やキャビネットだと思う。

11

「輝きを放つまち静岡」に向け、アジアの交流都市をめざし、昨年仁川青年会議所と姉妹締結を果たしました。

姉妹青年会議所関係をさらに発展させていくために、今後どんなことが必要となってくるとお考えですか。

仁川JCと交流する回数や参加する人数が増えるのではなく、アジアに対する意識、世界に対する意識がいかにメンバーへ浸透するかが最も重要である。その例として、アジアの代表である仁川と静岡市を比べることで国際意識を高めることができる。また、その機会として、仁川JCと共同事業を行ったり、大きな一つの事業を成し遂げてみることで、姉妹関係が発展していくと思う。

12

藤田さん自身JC在籍年数が長く多くのことを経験してきたと思います。積み上げられた自身の経験が、どのようなJC活動の場面で活かされましたか。

長くJCにいることで多くの仲間が増えるということが挙げられる。次に、理事長職を行う中でジャッジを求められたときに、積み上げた経験が役立つ。

しかも、それは理事長職を行っている最中でなく、理事長職を終えてから、「すべての経験が生かされていたんだ。」と気付いた。

取材全体としてのまとめ・感想

理事長という立場ではなく、長年JCの活動の中で経験したことや多くの仲間ができたことが一番貴重なことである。とくに、先輩や出向先の方々からのアドバイスなどは理事長の想いである所信に組み込まれているところがあり、それは、代々引き継いできたJCマンたちの想いが本年度にも引き継がれていることとなる。そして、その想いの詰まった所信を基にその年の運動が行われてきた。

取材前後での特に気付いた点

歴代理事長は、昨年の活動内容を見ながらそれを補う形で次の年の活動(所信)を考えていることに気付いた。また、単年度制の問題は事業活動で弊害となることもあるが、歴代理事長の想いは代々理事長へ伝わっており、静岡LOMとしては、メンバー一人ひとりの想いや経験が、常に引き継がれていることに気付いた。